

えいきょうせきどう  
永享石幢

鉄輪（神和苑） 個人所有

市指定有形文化財（建造物）

昭和42年4月11日指定

温泉旅館神和苑の玄関前の庭園内に立つ。永正板碑同様、鶴見字馬場水車観音堂前にあったものという。基礎・幢身・中台・龕部・笠・宝珠からなる重制石幢。総高228cm。中台に浅く彫られた凹部に比して龕部が小さく、別物と思われる。笠裏に墨書銘がある。『別府市の文化財（昭和58年版）』には人物名（15名）と「永享仁年〈1430〉」「大工太郎 三郎」等が掲載されているが、現在では墨書が薄れ判読困難な部分が多い。前掲書にある「六地藏菩薩」の文字も現状では判読できない。しかし年代がはっきりしている点は貴重である。このように石幢の笠裏に墨書銘を入れた例は、県内では大野川流域地域に何例か見ることができる。



（小泊 立矢）